

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・文学部

課題文は、携帯電話が普及した時代のあり方を分析する文章。わかりやすくまとめると、こうなる。「スーパーは家族を単位とする時代を象徴していたが、現在では、個人を単位とするコンビニが中心になっている。だが、そのような状況は好ましい方向に進まないで、自己本位主義志向をうながしている。デュルケムはアノミーという言葉で、自己本位主義が出現し、社会秩序が崩壊する状態、つまり社会なき社会を説明しているが、現在はそのような状況になっている。携帯電話を使用して周囲が見えなくなって自己領域に没入する人が増えているが、それはアノミー状態を意味する。食卓においても、携帯電話を手放さないで、電話が鳴るとそれで話をするようになっていく。つまり家族にとっての対幻想が衰弱している」

簡単に言ってしまうと、課題文には、携帯電話などの機器の発達によって自己本位主義が広まり、人が集まっているところでも一人ひとりが自分の世界に没入して社会を形成しなくなっている状況が説明されているわけだ。ここで語られる「対幻想が衰弱する」とは、わかりやすく言えば、家族のメンバーの持つ「私たちは一体をなした家族だ」という共通の思い（これを筆者は「対幻想」と呼んでいる）が薄れているというほどの意味だ。

この文章を読んで、設問1として、「アノミー・自己本位主義的志向・自己領域化」という言葉を使って、携帯電話が社会に及ぼす影響についての筆者の考えを書くことが求められている。これについては、先に述べたことを説明すればよい。

設問2は、課題文の最後のほうにある「対幻想は衰弱する」という筆者の主張に賛成か反対かを答えることが求められている。一般論として「対幻想は衰弱するものだ」ということへの賛否が問われているのか、あるいは携帯電話によって食卓の場で「対幻想は衰弱している」ということへの賛否が問われているのかわかりにくいですが、どちらでも減点はされないだろう。どちらかという、後者としてとらえるほうが書きやすい。

筆者に賛成する方向で論じる場合には、「携帯電話などの自己領域を拡大する機器のために、家族は一体となって行動しなくなり、同じ場を共有する習慣を失っている。こうなる

と家族のメンバーによって価値観までも異なるようになり、家族は生活の利便性のための同居人にすぎなくなり、対幻想は衰弱する」「結婚を望む若者が減り、孤立して生きるのを好む人が増えていること自体、対幻想が成り立ちにくくなっている証拠である。家族が自明のものでなくなり、自分の利益のために必要かどうかを選択されるものとなっている。この状況では対幻想は衰弱する」などの論が可能だ。

筆者に反対する方向で論じる場合には、「家族という対幻想は、メンバーが互いに心配しあい、将来を思いあうことによって生じる。食卓で携帯電話に出るからといって、そのような家族の思いを失うわけではない」「家族は家計をともにしているので、共通の価値観や利害を持っており、社会の最小単位として機能している。そのために対幻想が成立している。携帯電話などによってそれは失われない」などの論が可能だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>